



# 三条の風

八戸市立三条中学校  
学校だより第2号  
令和4年5月9日

## 自己管理能力の育成

校長 安田 真理子

新緑がまぶしい季節となりました。新年度がスタートしてひと月が経ち、少しずつ生活のリズムがつかわれてきているころだと思います。一年生は、部活動も決まり、学習との両立には、「時間の使い方」と「学び方」の工夫が必要となってきます。5月26日には初めての定期考査もありますので、一日の時間の使い方について、じっくり考えてほしいと思います。

「三条の風」の1号に、「よい習慣を身に付けること」について掲載いたしました。5月は連休もあり、よい習慣が崩れてしまった人もいるかもしれませんが、また、今日から気持ちを切り替えて頑張りましょう。

### ～スコラ手帳の活用～ (裏面参照)

本校の生徒は、「スコラ手帳」を使用しています。まずは、提出物や持ち物を記入し、次に、起きた時刻、就寝時刻、家庭学習の開始時刻の3点基本行動時間を記録することになっています。

「スコラ」は、「スクール」のラテン語からきているそうです。ですからスクール手帳ということになります。以前は、生活記録ノートというものを使っていましたが、スコラ手帳は、生活を記録するだけでなく、特に「自己管理能力」と「健康力」といった資質を育成できると考えています。

\* 自己管理能力 = 時間管理や計画を立てる経験を通して、自らの行動規範をつくること。  
その中で先を見通す力を習慣的に発揮できることです。

\* 健康力 = 心身の健康や関連性（エンゲージメント）の向上を自己マネジメントすること。  
手帳を通じた自己理解、自己肯定感の涵養や生活習慣力を育てます。

### スコラ手帳で育てたい「自己管理能力」の背景について

中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)」には、急激に変化する時代の中で子供たちに育むべき資質・能力は、下記のように書かれています。

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

SDGsの担い手の育成

多様性は学校の中だけにとどまらない。  
地域社会や大人との協働や社会課題への理解、造詣、解決への挑戦

自分の履歴の蓄積と活動記録の蓄積と整理、  
振り返り、そして、自分のよさや可能性の言語化が資質・能力の育成につながる。

# 三条中学校のなぜ？

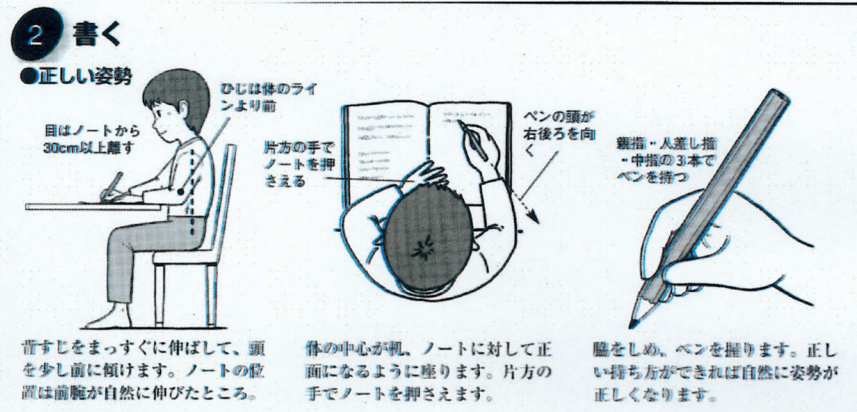
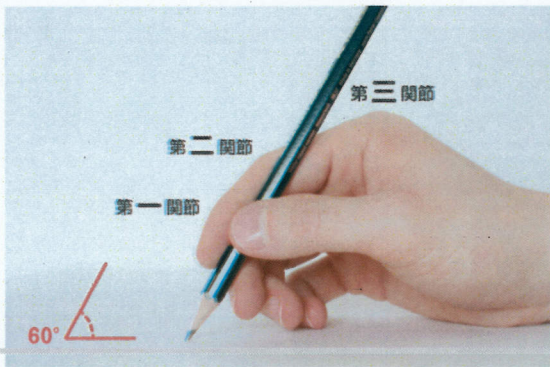
## 校内で鉛筆を使用することになっているわけとは・・・

昨年度は生徒総会において、シャープペンシルを使用してもよいのではないかという意見が出され、その利便性について意見が出されたり、生徒会執行部ではアンケートをとったりしました。保護者アンケートにも、「そのくらい認めるべき」という内容をお書きになった方もいらっしゃいました。

なぜ、鉛筆を使用するのか？理由は下記のとおりです。

- ① シャープペンシルの芯が床に落ちると、非常に床が汚れる。
- ② 正しい鉛筆の持ち方を義務教育中に習得する。⇒ 本校生徒は字が上手な生徒が多い。
- ③ 小学校との継続指導である。

学校以外の場所では使用してもよいので、校内では正しい鉛筆の持ち方を意識し、丁寧に文字を書く習慣を身に付けてほしいと思います。



六角形をした鉛筆が多い理由の1つは「面の数が3の倍数だと持ちやすいから」。例えば、親指、人差し指、中指と3本の指で握るのが鉛筆の正しい持ち方だとされていますが、六角形だと全ての指が面に当たります。一方、色鉛筆は絵を描く際にも使用されることも多く、様々な持ち方が想定されます。そのことを考慮したのが、よく見るあの丸い形なのだそうです。持ち方に合わせて特化したのが鉛筆の形状なら、どんな持ち方にも対応できるようにしたのが色鉛筆の形状というわけです。

## 鉛筆の正しい持ち方



### Point 1

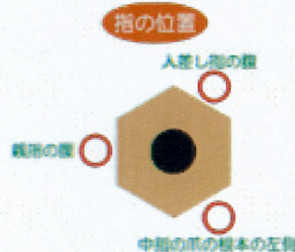
人差し指は鉛筆の先から25ミリ（幼児・児童の場合）のあたりに置きます。  
親指は人差し指より少し後ろに置き、中指を人差し指より前に出して3本の指で軽く持ちます。  
薬指と小指は中指に沿わせて軽く曲げます。

### Point 2

人差し指に沿わせて鉛筆を持ちます。

### Point 3

鉛筆を正しく持つと、自然と鉛筆の軸は用紙に対して50度～60度になります。  
鉛筆の軸は紙と直角ではなく、横に約20度傾けます。



正しいとされる鉛筆の持ち方だと、鉛筆の6つの面にバランスよく指が当たります  
(Webサイトより)

